



WARNING

私の作品は過激な描写を含みます。

私の作品・発信は全て現実世界/個人/団体とは一切関係なく、唱道等、思想提唱の意図も一切ございません。

現実/非現実の境界、現実世界での健全且つ倫理的な精神を保ちながら「非現実世界」を楽しめる成人済の方のみ閲覧して下さい。

Psyches
Creepy &
Creamies!!

僕が覚えているのは
ここから。

容易く突き飛ばされた
「二ノ宮」の少年は
壊れそうな身体と心。

痛いなあ



服を脱がされてるのに
皮膚を剥がされたみたいに
痛くて、僕は悪くなーに

「いめんなん」が
口から溢れこむ。

無力感に窒息して
死にそうなのに
必死に保っていた。



アシュケ。
貴様は弱すぎる。

私に神の座を寄越せ。

天井も見えない
大きな身体の男。

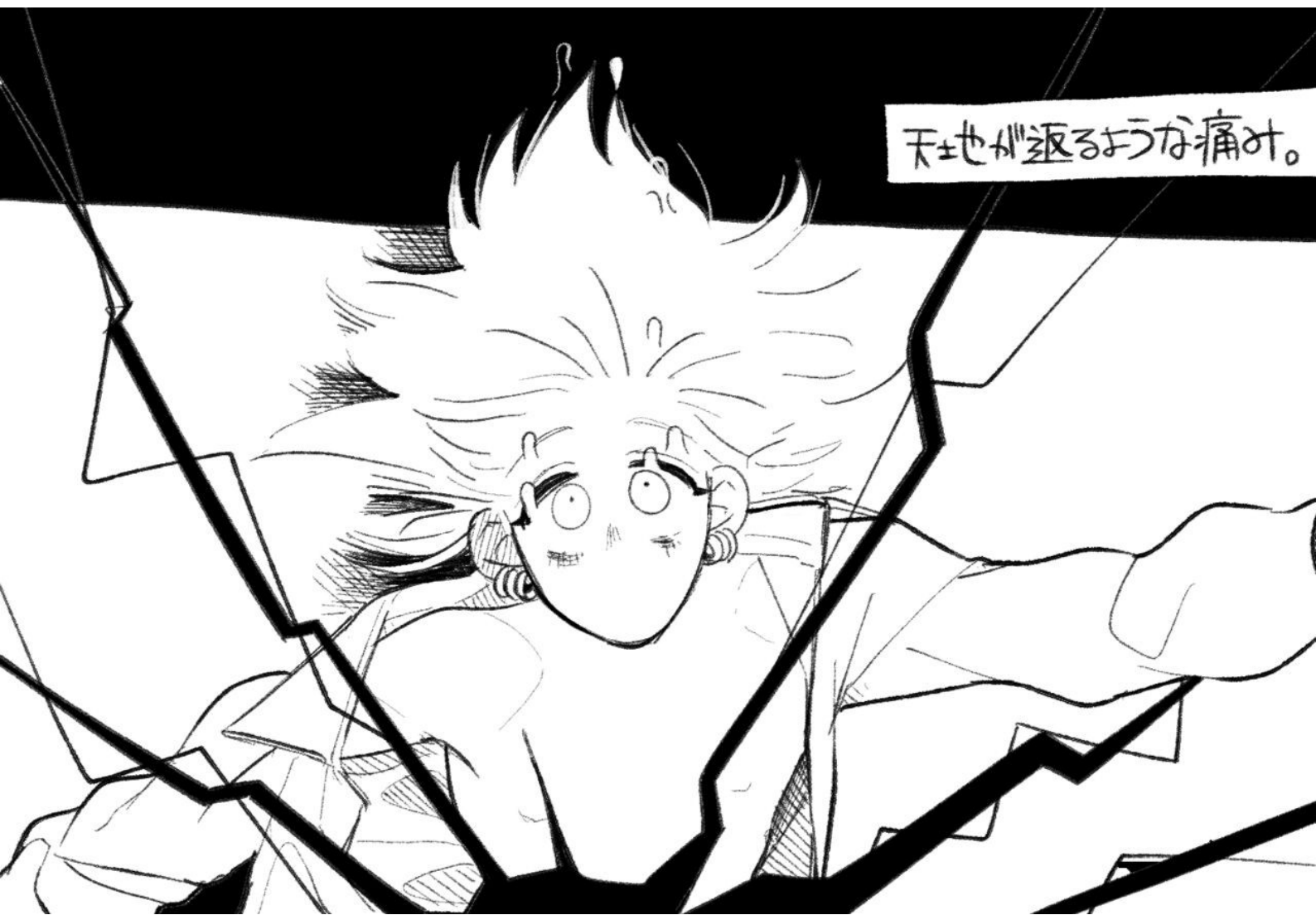




滑稽に開かれる脚。



天地が返るような痛み。



吊り上がる



□角





はあ……

はあ……

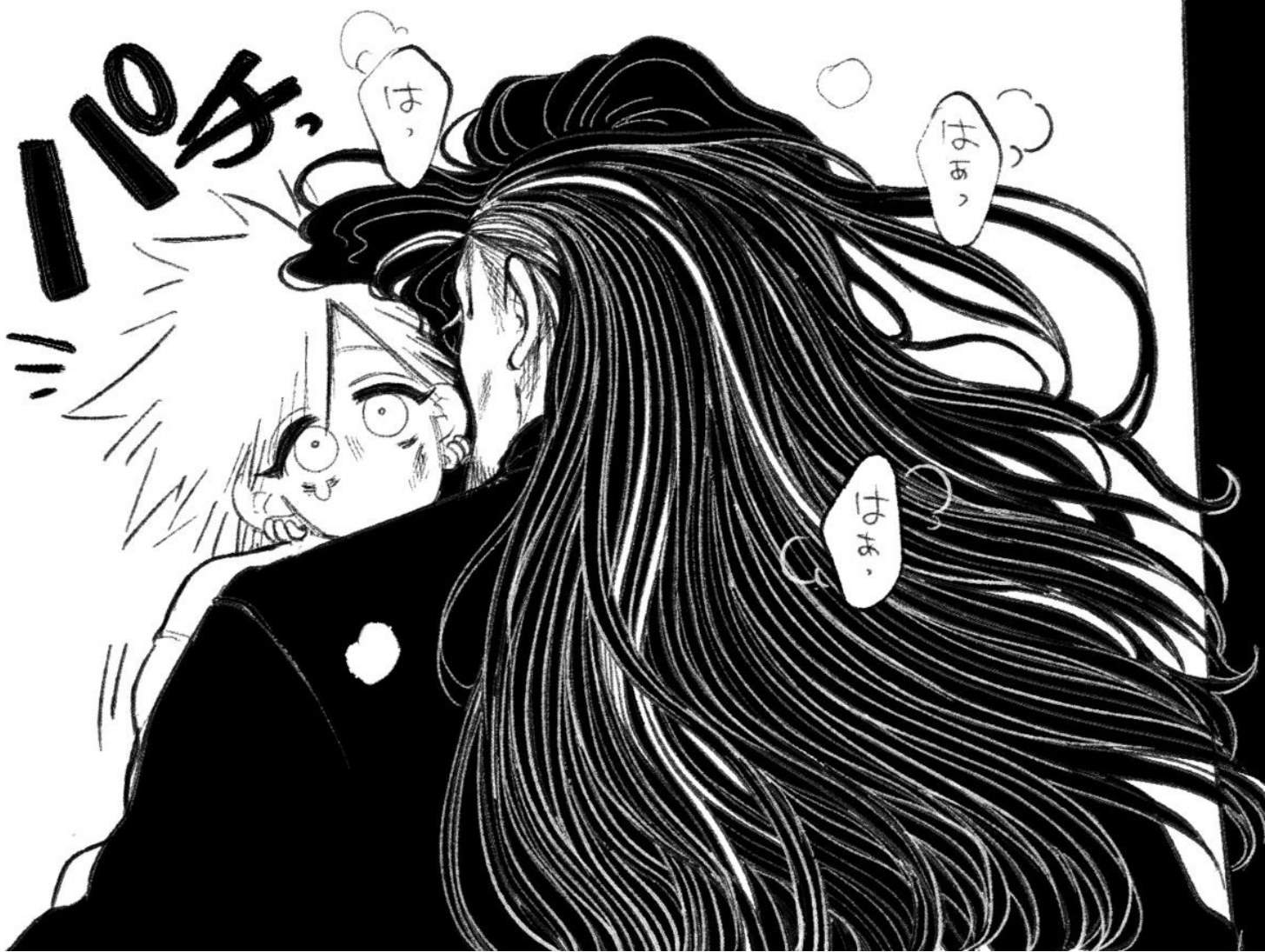
吐息

苦いけれど
甘みのあるタバコの香り

何故か苦くなる
血の臭い

リレを手繰り寄せて

目を覚ました。

















片付けておきました。

私がもっと早く
此処へ来ていれば...
申し訳ございません。





どうして君が
悲しそうなんだろう。





僕なんだ。













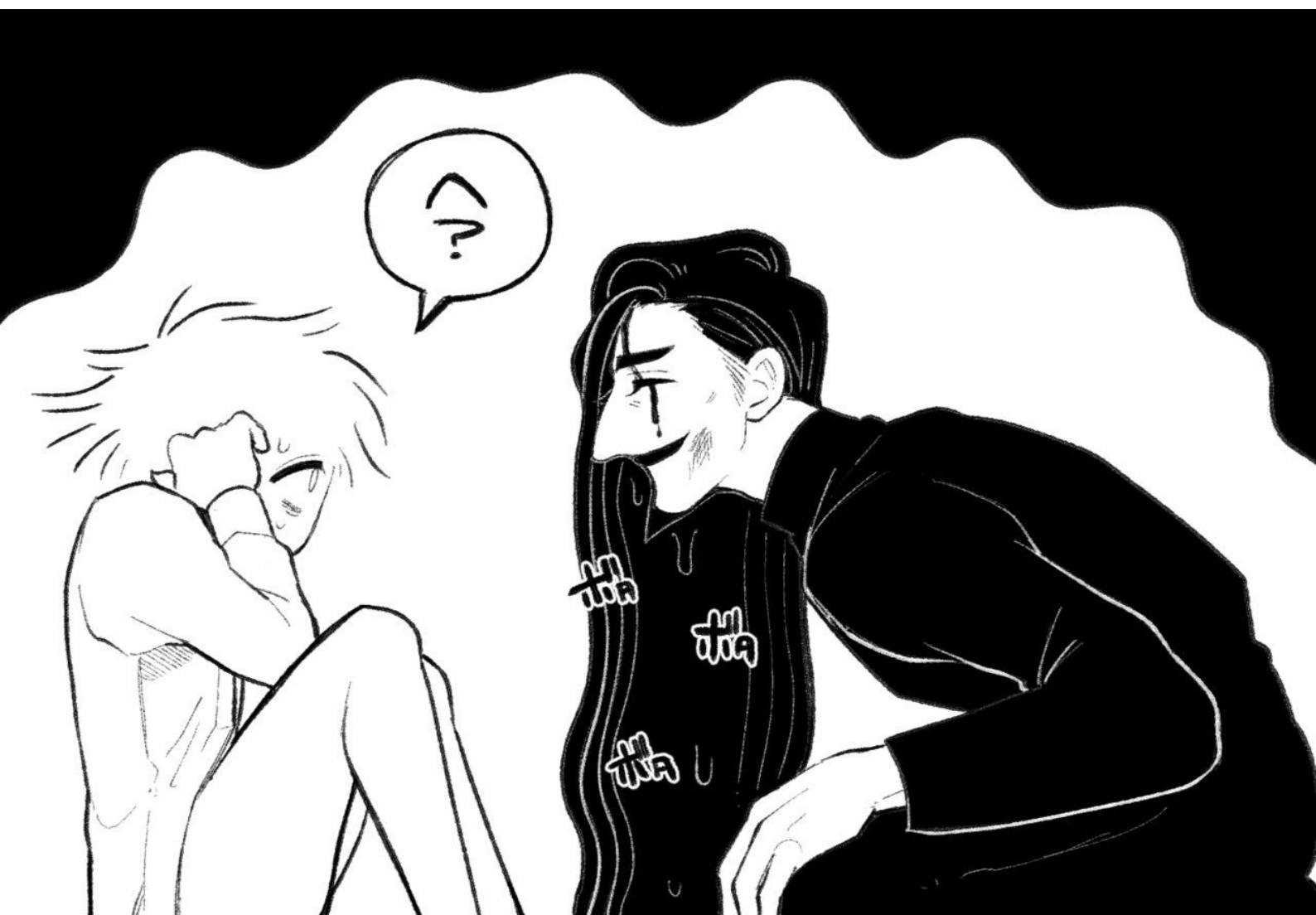






神様はお強いですよ。









私が神様を守る事は
予として当然です。
すぐに駆けつけられなかった
私はとんでもない愚鈍。

神様は子に裏切られ
救いもなく失神する程
痛めつけられた。
しかし、私のような愚鈍に
慈愛を向け
その上ご自身をお責めに
なられる強さがござります。



こんなにボロボロになって
僕を助け
心酔してくれている
君のほうが...





ふん...ふん...

あ...ちょっと目眩が...

カクッ

えっ







申し訳ありません...
神様...

ぽう

アッシュでいいよ。

そっか、僕は
神様なんだ。



じゃあ何故…
彼に負けたんだろう。



ちゅ... 治てる...

かがみ



何故
彼は彼に勝てた?

彼らはどちらも、アーマーになっただけになった
ほとんどヒトの魂のハズレだわ...



あゝ、僕はいつから襪にで。

ゆるぎを感ぜし、たゞたゞけ



とつて彼をうしろにたづな

ア、オ、カ、キ、ク、ケ、コ、

どうして彼等の事を知らぬのか？



ニニはボクしか来ねな"
場所へはすぐだけいなくて"
君たちは来えたの？





私はアッシュ様から
お呼び出しがあり
こちらに参りましたが...

ああそうだ思い出した。

「ヨッ」でお忘れになられたのですわ

そのようだ。

ああ

ああ

おもうでした。

僕は彼、**オスカー**が
僕の楽園を破壊しようと
気がついて...

はい

呼び出した。

はい

でも何故俺は
オスカーなんか
負けた？

ブッシュ様が彼を信頼
し、力を与えたからでは？

そうだ。思い出した。

はい

全部全部思い出した。



思い出して。。